

科目名	家庭総合 2年	学年	2年	使用教材	【教科書】 家庭総合 東京書籍
		必修 (工業科)			【副教材】
		単位数	2単位		
学習目標 (被服・保育・家族関係分野) 子どもの発達と保育、高齢者の福祉、衣生活、家族関係、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。					
学習方法 <ul style="list-style-type: none"> ○ 実践的・体験的な学習活動を通して、子どもの発達と保育、高齢者の福祉、衣生活、家族関係、消費生活を科学的・総合的にとらえていく。 ○ 自分の生活から課題を見つけ、生活をよりよくするための工夫を考え、実践できるようにする。 ○ 授業で活用するワークシートを上手に活用して、学習が確実に自分のものとなるよう、より深い理解をめざして取り組む。 					
学習評価 <ul style="list-style-type: none"> ○ 次の4つ観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括する。 					
①関心・意欲・態度		子どもの発達と保育、高齢者の福祉、衣生活、家族関係、消費生活などに関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。			
②思考・判断		子どもの発達と保育、高齢者の福祉、衣生活、家族関係、消費生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。			
③技能・表現		子どもの発達と保育、高齢者の福祉、衣生活、家族関係、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けている。 高等学校技能検定 (食物) 3、4級取得			
④知識・理解		子どもの発達と保育、高齢者の福祉、衣生活、家族関係、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を総合的に身に付けている。			
○学習の過程で自己評価を実施しますので、自らの学習状況をチェックし、目標達成に努めましょう					

2年家庭総合（衣・保育・家族・消費生活関係） 学習プログラム（年間学習計画）

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動【評価方法】
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・家庭総合を学習するにあたって ○ 1章 共に生きる <ul style="list-style-type: none"> ・第1節 人の一生と発達課題 <ul style="list-style-type: none"> 1. 人の一生と生涯発達 2. ライフステージと発達課題 3. 青年期のからだと心 4. 青年期の生き方 5. 男女の平等と相互の協力 ・第2節 家族・家庭と社会 <ul style="list-style-type: none"> 1. 現代の家族と特徴 2. 家庭の機能と家族関係 3. 家族・家庭と法律 4. 福祉と家庭生活 ・第3節 生活設計 <ul style="list-style-type: none"> 1. 生活設計とは 2. 家族と生活時間 3. 生活設計の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭科を学ぶ意義を理解し、これから学ぶ内容を知る。 ○各ライフステージの課題について考える。 ○自立や男女平等と相互協力について学習する。 ○家族の機能や形態、特長について学習する。 ○社会保障や社会福祉について理解する。 ○ 自らの人生設計について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書、ワークシート、を通して、人の一生と発達課題、家族・家庭と社会、生活設計について理解する。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2章 育つ・育てる <ul style="list-style-type: none"> ・第1節 子どもの発達 <ul style="list-style-type: none"> 1. 母体の健康管理 2. 子どもの心身の発達 3. 子どもの発達と生活環境 4. 生活習慣と遊びによる発達 ・第2節 親の役割と保育 <ul style="list-style-type: none"> 1. 親の役割と子どもの発達 2. 子育てと家族、地域の交流 3. 家庭保育と集団保育 ・第3節 子どもの福祉 <ul style="list-style-type: none"> 1. 児童福祉 2. 子どもを取り巻く現状と課題 ○ 第6章 装う <ul style="list-style-type: none"> ・1節 人と衣生活 <ul style="list-style-type: none"> 1. 被服と季節・気候・風土 2. 被服の機能 3. 現代の衣生活 	<ul style="list-style-type: none"> ○母体の健康管理や子どもの心身の発達と特徴、子どもの生活と遊び、親の役割などを学習する。 ○被服の機能と着装について考える。 ○繊維の種類と特長について学習する。 ○品質表示の見方や洗濯について学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書、ワークシート、を通して、子どもの発達、親の役割と保育、子どもの福祉について理解する。 【学習状況観察】 【ワークシート】 【定期考査】 【進捗表】 【自己評価】 ○教科書、ワークシート、実験、実習等を通して、被服に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、各部の名称及び寸法の関係等を実習を通して具体

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2節 被服材料 <ul style="list-style-type: none"> 1. 被服材料の種類 2. 被服材料の性能 3. 被服材料の性能改善と加工 ・ 第3節 被服の選択と管理 <ul style="list-style-type: none"> 1. 被服の選択 2. 被服の手入れ 3. 衣生活の安全 	<p>○立体構成と平面構成について理解を深める。○手縫い（並み縫い・まつり縫い等）やボタン付け等、基礎縫いについて学習する。</p> <p>○小物の製作に関する理論と技術を理解させ、能率的・創造的に製作できるようにする。</p>	<p>的に理解させる。</p> <p>【学習状況観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【定期考査】</p> <p>【進度表】</p> <p>【自己評価】</p>
3 学 期	<p>○ 3章 豊かな生涯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1節 高齢社会の進展と今後の展望 <ul style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会の進展 2. 加齢にともなう心身の変化 3. 高齢者の社会参加 ・ 第2節 高齢者の生活実態と福祉 <ul style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活実態と福祉 2. 高齢者への社会的支援 ・ 第3節 高齢者の福祉と介護 <ul style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の自立 (家庭の経済・消費領域) <p>①職業生活を設計する</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 経済的に自立する (2) 長期の職業計画 <p>②計画的に使う</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 収入と支出を知る (2) 家計のマネジメント <p>③国民経済・国際経済と家庭の経済生活</p> <p>④消費行動と意思決定</p> <p>⑤現代の消費社会</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 契約と契約トラブル (2) 商品の販売方法 (3) 多様化する支払い方法 (4) 消費者をめぐる問題 	<p>○高齢社会加齢にともなう心身の変化と特徴、高齢者の生活、高齢者の福祉サービスについて理解し、介護の基礎を体験的に学ぶ。</p> <p>・ 社会の経済と家庭の経済の関わりを理解し、正確な知識や情報を収集することにより、主体的に行動できる態度を身につける。</p> <p>・ 家計の構造を知り、家計の管理について理解する。</p> <p>・ 家計管理の必要性を理解し、経済生活の設計ができるようにする。</p> <p>・ 経済の発展と共に流通システムが発展してきたことを理解する。</p> <p>・ 消費者の権利の保障と自己責任について理解</p>	<p>○教科書、ワークシート、を通して、高齢社会の進展と今後の展望、高齢者の生活実態と福祉、高齢者の自立と介護について理解する。</p> <p>【学習状況観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【定期考査】</p> <p>【進度表】</p> <p>【自己評価】</p> <p>・ 教科書、ワークシートを通して、消費行動と意思決定、家庭の経済生活、消費者の権利と責任、消費行動と資源環境について学習する。</p> <p>【学習状況観察】</p> <p>【ワークシート】</p> <p>【考査】</p> <p>【レポート】</p>

	<p>⑥消費者の権利と責任</p> <p>⑦これからの消費生活と環境</p> <p>(1) 消費生活と環境問題</p> <p>(2) 持続可能な社会を目指して</p> <p>(3) 消費者としてできること</p>	<p>し、消費者保護のための法律や関係機関について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費行動の義務と責任について理解する。 ・契約、消費者信用について理解し、適切に対応できる判断力をつけることができる。 ・契約にたいする責任を自覚し、トラブルにあわない対策について学ぶ。 ・消費行動と環境問題の関連について考えることができる。 ・循環型社会の実現のために消費行動について考え、環境に調和したライフスタイルの確立を図ることができる。 	
--	--	---	--